

海からの風 山からの風



尾道市文化協会は、戦後まもない昭和 21 (1946) 年に前身である「尾道文化研究会」として発足しました。その後、昭和 56 (1981) 年に市内の文化団体を結集し、「尾道市文化協会」として設立しました。

平成 17 (2005) 年に御調町文化協会及び向島町文化協会と、翌平成 18 (2006) 年には因島文化協会及び瀬戸田町文化団体協議会と合併し、新たな「尾道市文化協会」が誕生しました。

今年は、昭和 56 (1981) 年に尾道市文化協会が誕生して 40 年目になります。40 年という永きにわたって文化・芸術・伝統を継承し、今日に至っています。

しかし、昨年、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、多くの催しを中止せざるを得ませんでした。また、会員の皆様の文化活動にも多大な影響があったと存じます。

ウイルスの解明が進み、有効な感染防止対策が示されたため、感染防止対策を講じたうえで、一部の事業や文化活動も再開することもできましたが、以前のように活動するのは、いまだ厳しい状況にあります。

尾道市文化協会では、新型コロナウイルスの一刻も早い終息を祈念し、今後も地域文化の発展と伝統の継承を担う会員の皆様の活動を支援するとともに、会員の皆様と共に歩んでいきたいと考えております。

第38回総合文化祭開催

第38回総合文化祭は、10月31日、11月1日の「市民音楽芸能祭」に始まり、11月8日の「尾道小径散策秋の茶会」11月11日～15日開催の「尾道の美展」でフィナーレを迎える予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、「市民音楽芸能祭」と「尾道小径散策秋の茶会」が中止となりました。また、地区事業として開催される各地区の総合文化祭も全て中止となり、「尾道の美展」のみ開催することができました。

この期間は、尾道市文化協会会員の皆様には、日頃の修練の発表の場、創作活動の発表の場であるとともに、市民が文化芸術を身近に触れ、親しむことのできる機会となっておりますが、残念ながらその貴重な場が失われ、例年になく寂しい秋となりました。

今後の開催では、このコロナ禍を克服し、会員の皆様が笑顔で発表できるよう祈念いたします。

尾道の美展2020

『尾道の美展2020』は、美術部・華道部の協力により、11月11日（水）から15日（日）までの5日間、尾道市民センターむかいしまにおいて、作品の展示を行いました。

会場には、絵画、書、写真、陶芸、彫刻、手芸、華道など様々なジャンルから多くの作品が展示されましたが、この美展においても、新型コロナウイルス感染症の影響により、「囲碁の広場」と無料の「お茶席」が中止となり、少し寂しくなっていました。それでも、出展作品は力作揃いで、たいへん見応えがありました。

5日間の出品者数は161人（前年比△33人）、来場者数は692人（前年比△83人）となりました。



高校生おのみち演劇祭

10月25日(日)しまなみ交流館で「第19回高校生おのみち演劇祭」を開催しました。(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、非公開)

広島県高等学校総合演劇大会尾三地区予選を兼ねた大会でもあり、参加4校(尾道高等学校、三原高等学校、三原東高等学校・尾道商業高等学校)による熟演が繰り広げられました。

最優秀賞の尾道高校は、県大会でも第3席とたいへん健闘しました。

◆最優秀賞◆

尾道学園 尾道高等学校

「おおかみのこえ」

13世紀初頭、寒冷なモンゴル高原。貧しかった『蒼き狼』の末裔・テムジンは、モンゴルの王となった。豊かな国を作るため戦を始めたが、力を手に入れ、次第に人の心を失い、人を超越した至高の存在になろうとする。人の心を狂わせるのは、富か?憎しみか?はたまた「内なる神の声」なのか?



◆優秀賞◆

三原高等学校

「眠りなさい、お姫様」

「あなた、私を殺してください。」死んで真実の愛を手に入れようとするシンデレラ。そのシンデレラの暗殺を目論む白雪姫と茨姫。暗殺計画に巻き込まれていくアリス達。謎のお姫様、ジュリー。荒れるお茶会、渦巻くそれぞれの思い。果たしてシンデレラの運命は?



◆優秀賞◆

尾道商業高校

「ここでは死ねない!？」

ある日の夕方、とあるマンションの屋上。屋上から飛び降りようとする少女。それを止めようとしている(?)女性。二人の心の中にはいったい何が秘められているのか。



◆優秀賞◆

三原東高校

「猫になりたい??猫の日の夜にいきたい少女の物語?」

さむーい、さむーい3月の日。今日は猫の日!猫の力が高まる日、人間をやめて猫になりたいと願った少女は、猫の世界へひとつとび!そしてその少女を助けようとする、優等生に見えた姉の真実とは・・・。



会員作品紹介



「時を告げる」(塑造)

日置芳也 (因島吉田彫刻・陶芸)

鶏が日の出と同時に時を告げる声を近年聴かなくなった。そんな懐かしさを番いで作品にしてみました。



「厄除香合 赤べこ」(陶器)

金野剛 (尾道陶芸作家協会)

毎年制作している干支香合。コロナ禍の本年は疫病除けの縁起物として知られる赤べこをモチーフにしました。



「つぼ」(陶器)

森岡かず子 (瀬戸田陶芸部会)

投げ入れようのつぼを、ブルーワラ灰を使って作りました。



「観音寺からみた風景」(日本画)

加納玲子 (尾道日本画協会)

山を登ると瀬戸が一望に見わたせる。風が冷たくて海の色が鮮やかに染まる。一瞬を忘れさせてくれる風景だ。



「願いを込めて」(油彩画)

武田昭博 (尾道美術協会)

奉納された健脚を願うわらじと鞍馬に書かれた願い事が叶う様を祈りながら、光を意識して制作した作品です。



「尾道の海景」(油彩画)

瀬山清三 (尾道美術協会)

この作品は、千光寺公園よりみた尾道の水道の海。向島沖合の海を絵で描きました。思い切った遠近感を出しました。



「雁」(書道)

笙風 (花田真智子) (桂文会)

隷書から草書へと変わる草草という書体です。黒と白がどう浮かび上がるのか、バランスを意識して書きました。



「夏草」(書道)

鹿屋真由美 (蒼風会)

「夏草」夏草はしげりにけりな玉ぼこの道行き人もむすぶばかりに (藤原元真) の歌を書きました。



瑞氣満梅花

ずいばいかにみつ (書道)

山根秀月 (山根節子) (柏樹会)

梅という字に異体字を使ったので全体の流れが良くなったと思います。

会員作品介绍



「農夫」(版画)

西本嘉弘(東生口公民館版画教室)

昔祖父が、背負子で芽を背負い働いていた姿に似ていたので、懐かしく思い表現しました。



「薄日霧照」(写真)

竹原準一郎

(全日本写真連盟尾道支部尾道写真クラブ)

前日の雨で故郷の里山に深い霧、見え隠れしながら昇る朝日が山際の霧を照らし静かな神秘的な光景を撮った。



「春風」(華道)

間江豊規(間江規子)(小原流)

大きく動いている裏白で風を表現し、黄色の玉菊とやわらかなスイートピーで春らしい色合いを見せています。



「季節の花束」(華道)

渡辺高淵(恭代)(関流尾道支部)

四季折々の花材を、着色もし色々に組合わせて、会場(明かりを少し落した)に合わせて、表現した作品です。



「聖夜」(華道)

芳艶(田邊芳子)(華道専正池坊)

カラー3本はローソクに、ヒマラヤ雪の下の緑の葉・ヒベリカムの赤い実でホーリーに見立てたクリスマスです。



「若松」(華道)

今川満甫(満子)(末生流御褒会)

若松は生気のみなぎった端正さからお正月の花に用います。又金銀の水引を結んでお祝花とします。

会員活動紹介



尾道市民合唱団

「新しい生活様式のもと、対策を講じて練習しています」



尾道ジュニアコーラス

「尾道ジュニアコーラスマニコンサート」

会員活動紹介



アロハ ローゼ ハウオリ 御調

「タヒチアダンスに挑戦」に挑戦



アンサンブル・カーノ

「ハーモニー♪声を重ねて」



尾道女声合唱団まどか

「コロナ禍の練習風景」



鉄心流剣詩舞道

「全日剣連中四国地区刀法講習会及び審査会」を開催した



撫子会

「内子座で、県代表で、踊らせて頂きました。」



舞憂会

「県大会で、奨励賞を頂きました。」



瀬戸田地区

「介護施設作品」



瀬戸田地区

「音楽芸能発表会に参加する小・中学生」

尾道と住友—旧三井住友銀行尾道支店について

旧三井住友銀行尾道支店は、令和2(2020)年7月に尾道市重要文化財に指定されました。旧三井住友銀行尾道支店は、昭和13(1938)年に建築された、住友銀行尾道支店としては3代目の建物になります。現在は、4代目の建物が、当該建物の南隣に設置されています。こうした近代建造物としては、旧河内村役場(御調町)、旧尾道商業会議所(現尾道商業会議所記念館)、旧尾道銀行本店(現おのみち歴史博物館)が同じく尾道市重要文化財に指定されています。

明治時代以降の尾道は、港町であるとともに、県内でもいち早く銀行や商業会議所が設置された金融業・商業の町でもありました。明治24(1891)年には山陽鉄道が開通し、陸海両方の交通網が整備され、尾道はさらなる飛躍を遂げています。

そうした港町尾道に着目し、拠点を立てていたのが住友家です。明治6(1873)年に住友家尾道分店を開設し、並合業(金融・貸金業)に参入し、明治25(1892)年には住友家尾道支店を開設しています。明治28(1895)年には、大阪と別子銅山の両方から集まりやすい尾道に、伊庭貞剛など住友家の重役が集まり、「尾道会議」により住友銀行設立が決定されました。そして、その年の12月に住友銀行尾道支店が開設されています。

この住友家尾道支店や住友銀行尾道支店(初代)が所在していたのが、旧三井住友銀行尾道支店がある周辺になります。この場所は、江戸時代には御蔵所と呼ばれ、尾道町奉行所の西隣に位置します。住友家が明治時代初期にこうした公的機関の場所を買い取り、拠点にしたのでしょうか。

住友銀行尾道支店の初代建造物は、残っていませんが、2代目は現在でも残っています。それが、現在の尾道市労働センターです。明治37(1904)年に久保一丁目の現在地に建設され、様々な用途に使用されながらも現在まで活用されています。木造平屋ながら、石積のようにみえるモルタル塗りで仕上げられていて、重厚感を感じる造りとなっています。この2代目の建物がある周辺は、明治時代以降、第六十六銀行(広島銀行の前身)や尾道銀行、諸品会所などの金融関係の建物が多く、銀行浜と呼ばれていました。

このように、尾道での住友家は、各時代の金融の中心地に銀行を設置し、活動していました。旧三井住友銀行尾道支店(3代目)は、尾道が繁栄していた時代を表す建物であり、また、尾道と住友の長い歴史を語るうえで欠かせない重要な場所でもあります。今後は、末永く尾道の歴史文化を発信する拠点となるべく、整備される予定です。



旧三井住友銀行尾道支店



江戸時代の御蔵所(左)と町奉行所(右)

地区文化事業

様々な芸術文化活動の発表の場として、地区固有の文化活動を継承しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、因島・瀬戸田・御調の各地区で実施している地区文化祭は中止になりました。

出版事業



尾道文化

尾道文化第 39 号

A5 判 166 頁
販売金額 / 1,000 円
発行日 / 3 月 26 日
※市内の書店や文化協会事務局で販売しています。



御調文学

御調文学第 55 号発行

B5 判 142 頁
販売金額 / 800 円
発行日 / 3 月 15 日
※御調町内や文化協会事務局で販売しています。

令和 2 (2020) 年 会員行事

日時	事業名	開催場所	主催者
2月1日~2日	春浅くとも 花は春爛漫…尾道支部 いけばな池坊展	しまなみ交流館	池坊尾道支部
2月23日	Early Spring Concert2020	しまなみ交流館	バレエスタジオ アジュレ
10月9日~13日	2020 年創立 86 周年尾道美術協会大作展	尾道市民センターむかいしま	尾道美術協会

※行事は文化協会に後援申請されたもの

事務局だより

「会報第 25 号」をお届けします。

この会報を通じて、文化協会に所属する様々な団体の活動や取り組みに触れていただきたいと思ひ、作品や活動の様子を掲載しています。

これからも、皆様とともに尾道市の文化・芸術活動を推進していきたいと考えていますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

投稿者だけでなく、関係会員の他、市民の皆さんにも広く読んでいただきたい会報誌です。会員の皆様の積極的な PR 等、ご協力をお願いします。

尾道市文化協会会報

「海からの風 山からの風」第 25 号

【発行】令和 3 (2021) 年 3 月 31 日

【発行所】尾道市文化協会 尾道市久保一丁目 15-1

尾道市企画財政部文化振興課内

TEL(0848)20-7514 FAX(0848)37-2740

E-mail:bunka@city.onomichi.hiroshima.jp